





タリオンAR

⚠ 使用上の注意	解 説
<p>⊗ してはいけないこと (守らないと現在の症状が悪化したり、副作用・事故が起こりやすくなります)</p> <p>1. 次の人は服用しないでください。 (1) 本剤又は本剤の成分によりアレルギー症状を起こしたことがある人。 (2) 15才未満の小児。 (3) 次の診断を受けた人。腎臓病</p> <p>2. 本剤を服用している間は、次のいずれの医薬品も使用しないでください。他のアレルギー用薬(鼻炎用内服薬、皮膚疾患用薬を含む)、抗ヒスタミン剤を含む内服薬等(かぜ薬、鎮咳去痰薬、乗物酔い薬、催眠鎮静薬等)</p> <p>3. 服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないでください。(眠気等があらわれることがあります。)</p> <p>4. 授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けてください。</p> <p>5. 服用前後は飲酒しないでください。</p> <p> 相談すること</p> <p>1. 次の人は服用前に医師又は薬剤師に相談してください。 (1) 医師の治療を受けている人。</p>	<p>過去に本剤又は本剤の成分によってアレルギー症状を経験したことのある人が服用すると、アレルギー反応があらわれるおそれがあります。 (副作用の発現状況は「臨床成績」の項に記載)</p> <p>小児は症状を正確に伝えることが難しく、成人に比べかぜなどの感染による鼻炎に使用される可能性が高いため、本剤が要指導医薬品であることを踏まえて設定しました。</p> <p>医療用医薬品タリオンの添付文書の使用上の注意で腎機能障害のある患者には慎重に投与することとなっているため、本剤が要指導医薬品であることを踏まえて設定しました。 本剤は主に腎臓から排泄されるため、腎機能(腎排泄能)が低下している場合には血中濃度を上昇させる可能性があります。腎不全などの重度の腎臓疾患に限らず、腎機能(腎排泄能)が低下しているような場合には、本剤の服用を避けていただく必要があります。</p> <p>本剤と類似の作用を持つ他のアレルギー用薬(鼻炎用内服薬、皮膚疾患用薬を含む)や抗ヒスタミン剤を含む内服薬等(かぜ薬、鎮咳去痰薬、乗物酔い薬、催眠鎮静薬等)と併用することにより、作用が増強したり、副作用が発現しやすくなる可能性があります。</p> <p>体調や個人により、眠気を催すことがあるため、設定しました。 (副作用の発現状況は「臨床成績」の項に記載)</p> <p>動物実験(ラット)で乳汁中への移行が報告されています。</p> <p>一般的に薬剤とアルコールの併用は避けるべきと考えられるため設定しました。</p> <p>医師から何らかの薬剤の投与又は処置を受けている可能性があります。自己判断で他の薬を服用することは、場合によっては内容成分の重複投与や医師の治療方針に影響を及ぼすおそれも考えられます。</p>

 使用上の注意	解 説																								
(2) 妊婦又は妊娠していると思われる人。 (3) 高齢者。 (4) 薬などによりアレルギー症状を起こしたことがある人。 (5) アレルギーによる症状か、他の原因による症状かはっきりしない人。 (6) 気管支ぜんそく、アトピー性皮膚炎等の他のアレルギー疾患の診断を受けたことがある人。	動物実験で胎児への移行が認められているため、胎児への影響を考え、慎重を期する必要があります。 高齢者は一般的に新陳代謝や解毒機能が衰えているため、薬剤の副作用があらわれやすくなる可能性が考えられます。 人によっては配合成分や添加物でアレルギー症状をおこすおそれがあります。過去に薬や食品、化粧品等によるアレルギー症状の既往歴のある人は、薬物アレルギーを起こしやすいので注意が必要です。 鼻炎症状には、他にかぜ、副鼻腔炎などによるものが考えられるため、原因がはっきりしない場合は、医師又は薬剤師に相談する必要があります。 気管支ぜんそく、アトピー性皮膚炎等、これらの疾患を合併するもしくはこれらの既往歴を有する人は、これらの疾患の存在を踏まえた専門的な治療を必要とする場合もあるため、相談事項としました。																								
2. 服用後、次の症状があらわれた場合は副作用の可能性があるため、直ちに服用を中止し、この添付文書を持って医師又は薬剤師に相談してください。	医療用医薬品タリオンの添付文書に記載されている主な副作用を使用者にわかりやすい表現で記載しています。これらの症状があらわれた場合は、直ちに服用を中止し、医師又は薬剤師に相談する必要があります。																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>関係部位</th> <th>症状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>皮膚</td> <td>発疹、はれ、じんましん</td> </tr> <tr> <td>消化器</td> <td>吐き気・嘔吐、胃痛、胃部不快感、舌炎、腹痛</td> </tr> <tr> <td>精神神経系</td> <td>倦怠感、頭痛、頭重感、めまい</td> </tr> <tr> <td>泌尿器</td> <td>血尿、尿量減少、排尿困難</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>月経異常、むくみ、動悸、息苦しい、しびれ、味覚異常</td> </tr> </tbody> </table>	関係部位	症状	皮膚	発疹、はれ、じんましん	消化器	吐き気・嘔吐、胃痛、胃部不快感、舌炎、腹痛	精神神経系	倦怠感、頭痛、頭重感、めまい	泌尿器	血尿、尿量減少、排尿困難	その他	月経異常、むくみ、動悸、息苦しい、しびれ、味覚異常	【医療用医薬品タリオンの添付文書より一部抜粋(対象患者に皮膚疾患を含む)】												
関係部位	症状																								
皮膚	発疹、はれ、じんましん																								
消化器	吐き気・嘔吐、胃痛、胃部不快感、舌炎、腹痛																								
精神神経系	倦怠感、頭痛、頭重感、めまい																								
泌尿器	血尿、尿量減少、排尿困難																								
その他	月経異常、むくみ、動悸、息苦しい、しびれ、味覚異常																								
3. 服用後、次の症状があらわれることがあるので、このような症状の持続又は増強が見られた場合には、服用を中止し、この添付文書を持って医師又は薬剤師に相談してください。 口のかわき、眠気、便秘、下痢	<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類 \ 頻度</th> <th>0.1~5% 未満</th> <th>0.1% 未満</th> <th>頻度不明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>過敏症</td> <td>発疹</td> <td>腫脹、蕁麻疹</td> <td></td> </tr> <tr> <td>消化器</td> <td>口渇、悪心、胃痛、胃部不快感、下痢</td> <td>口内乾燥、舌炎、嘔吐、腹痛</td> <td>便秘</td> </tr> <tr> <td>精神神経系</td> <td>眠気、倦怠感</td> <td>頭痛、頭重感、めまい</td> <td></td> </tr> <tr> <td>腎臓</td> <td>尿潜血</td> <td></td> <td>尿量減少、排尿困難、尿閉</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> <td>月経異常</td> <td>浮腫、動悸、呼吸困難、しびれ、味覚異常</td> </tr> </tbody> </table> <p>一過性の口のかわき、眠気、便秘、下痢については、当該副作用の発現後、直ちに服用を中止する必要はありません。しかし、当該副作用の持続又は増強がみられた場合は、他に原因があることも考えられるため、服用を中止し、医師又は薬剤師に相談する必要があります。</p>	種類 \ 頻度	0.1~5% 未満	0.1% 未満	頻度不明	過敏症	発疹	腫脹、蕁麻疹		消化器	口渇、悪心、胃痛、胃部不快感、下痢	口内乾燥、舌炎、嘔吐、腹痛	便秘	精神神経系	眠気、倦怠感	頭痛、頭重感、めまい		腎臓	尿潜血		尿量減少、排尿困難、尿閉	その他		月経異常	浮腫、動悸、呼吸困難、しびれ、味覚異常
種類 \ 頻度	0.1~5% 未満	0.1% 未満	頻度不明																						
過敏症	発疹	腫脹、蕁麻疹																							
消化器	口渇、悪心、胃痛、胃部不快感、下痢	口内乾燥、舌炎、嘔吐、腹痛	便秘																						
精神神経系	眠気、倦怠感	頭痛、頭重感、めまい																							
腎臓	尿潜血		尿量減少、排尿困難、尿閉																						
その他		月経異常	浮腫、動悸、呼吸困難、しびれ、味覚異常																						

 使用上の注意	解 説
<p>〈用法及び用量に関連する注意〉</p> <p>(1) 用法・用量を厳守してください。</p> <p>(2) 花粉によるアレルギー症状に対して服用する場合は、花粉飛散予測日から、又は、症状が出始めたら早めに服用を始めると効果的です。</p> <p>(3) 継続して服用することで効果が得られます。</p> <p>(4) 1週間服用しても症状の改善が見られない場合又は症状の改善が見られても2週間を超えて服用する場合は、医師又は薬剤師に相談してください。</p> <p>(5) 錠剤の取り出し方 図のように錠剤の入っているPTPシートの凸部を指先で強く押して裏面のアルミを破り、取り出してお飲みください。 (誤ってそのまま飲み込んだりすると食道粘膜に突き刺さるなど思わぬ事故につながります。)</p> 	<p>医薬品にはそれぞれ有効な用法・用量が決められています。それを下回った場合には効果が得られないこともあり、また、定められた用量以上大量に服用しても、効果はそれに比較して上がるわけではなく、場合によっては副作用があらわれるおそれもあります。薬は定められた用法・用量を正しく守ることが大切です。</p> <p>鼻アレルギー診療ガイドライン2020年版(改訂第9版)では、花粉症に対しては花粉飛散予測日または症状が少しでも現れた時点で内服を開始することとされています。また、医療用医薬品タリオンの添付文書では、「本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考えて、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい」と記載されています。</p> <p>臨床試験(第Ⅲ相二重盲検比較試験)において、全般改善度の改善率(軽度改善以上)は、投与開始2週後で75.0%(75例/100例)、4週後で80.2%(73例/91例)でした。投与開始後2週間程度で効果が得られ、更に継続することで十分な効果が得られています。 (「臨床成績」の項に記載)</p> <p>1週間服用しても症状の改善が見られない場合は他に原因があることも考えられることから、医師(耳鼻科医など)又は薬剤師への相談が必要なため、また、症状の改善が見られても、外的要因の継続等によって2週間を超えて服用する場合には、自己判断ではなく、医師(耳鼻科医など)又は薬剤師への相談が必要です。</p> <p>PTP包装から薬剤を取り出さずにそのまま飲み込んでしまい、食道粘膜に突き刺さってしまう等の重大な誤飲事故が報告されています。このような誤飲を防ぐ目的で、注意喚起しています。</p>